経営情報学科

キーワード	青年期，インターネット，インターネットを介した出会い（Online Dating），インターネット疲れ/SNS疲れ，神経発達症（発達障がい），インターネット依存

准教授 / 博士（学術）

片山　千枝

Chie Katayama

学歴

群馬大学　社会情報学部社会情報学科　卒業（学士　社会情報学）
埼玉大学大学院　教育学研究科　臨床心理学コース　修了（修士　教育学）
金沢大学大学院　人間社会環境研究科　修了（博士　学術）

経歴

株式会社USEN　Life Event Media事業局，埼玉県立羽生高等学校スクールカウンセラー，
北陸学院大学・短期大学部非常勤講師，加賀看護学校　非常勤講師

相談・講演・共同研究に応じられるテーマ

青年期のインターネット利用全般，インターネットを介した出会い（Online Dating），
インターネット疲れ/SNS疲れ，神経発達症とインターネット

メールアドレス

katayamac@fukui-ut.ac.jp

主な研究と特徴

「青少年のインターネット利用の実態」

1999年にネット接続可能な携帯電話（以下，ケータイ）が発売されてから，青少年の間にネット利用が爆発的に普及した．20年以上経った今では，多くの青少年が自分専用のネット端末を所持し，利用していることは，複数の調査・研究より明らかとなっている（内閣府 2018ほか）．青少年は自分専用のネット端末を所持することで情報を受信するだけでなく，自ら情報を発信している．また，それらの端末を保護者との連絡手段だけではなく，既存の友人・知人とメールをやりとりしたり，インスタントメッセンジャー（以下，IM）やSNS（ソーシャルネットワーキングサイト・サービス）でメッセージはもちろん，画像や動画を共有したりして楽しんでいる．

本研究室は，①青少年が自分専用のネット端末から情報を受発信する中で発生する問題や課題について，社会情報学の視点から調査・分析し，②調査・分析から明らかとなった点や問題や課題の解決方法について社会に還元することを目的としている．

「インターネットを介した出会い（Online Dating）」

インターネットを介した出会い（以下，ネットを介した出会い）とは，「X（旧Twitter）やInstagramなどのSNSやLINEなどのIMを介して新たに知り合った相手と対面すること（片山千枝 2022）」である．欧米諸国ではOnline Datingがそれに該当し，魅力的な相手と出会うため，ネット上の自己呈示（古川良治 2008）に関する研究が多い（Jeffrey Hancock et al. 2007ほか）．

本研究室では過去に，青年期女子のネットを介した出会いの実態について，①出会い経験者と非経験者の差異，②出会いの実現に対する考え，③出会いを実現する過程について注目し，その実態を明らかにした．結果，一部の出会い経験者は社会的補償のため，「能動的出会い（自らの強い意志で出会いを実現すること）」をしていた．しかし，ネットを介した出会いは社会的補償にはなり得ず，困ったときに頼りにできる人がいなかったり，悩みごとの相談にのってくれる人がいなかったりするなどの社会的サポートが少ない者は，「選べない縁（上野千鶴子 1994）」を求めて，出会いを繰り返すことがわかった（図）．また，出会いを繰り返すことはなくても，ネットを介して繋がった相手との関係が消滅しないよう，努力し続ける必要性も明らかとなった．

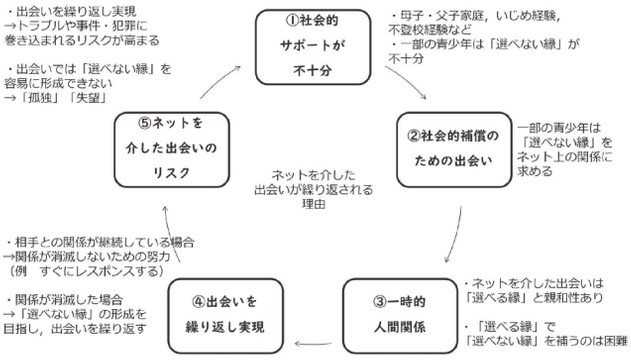

図　ネットを介した出会いが繰り返される理由

発達段階において青年期という時期はアイデンティティを試行錯誤しながら確立することが課題であり，保護者ではなく，友人・知人との関わりの中から自分らしさというものを見つけていくことが重要である．また，その自分らしさを見つけていく過程も，個人化の発展する現代社会では困難に直面する．たとえば進学先や就職先はもちろん，結婚相手やどこに誰と住むかといったことも選択できるようになった一方，自分で決められない，決める能力のない者はなす術がない．また，自分で決めることができる能力を有する者であっても，自分の選択が正しいものであるか確信を持てず，不安を抱えることが現代社会の特徴であるともいえる．そのような不安定な状況の中で，身近な家族関係や友人・知人との関係が何らかの理由で良好でない場合，ネットを介した出会いによって繋がった相手に過剰に期待したり，頼りたくなったりする青少年が一定数いることは予想できる．上記を踏まえ，青年期女子をはじめとした青少年の「サードプレイス」（Ray Oldenburg 1999=2013）の構築が研究実践上の課題である．

今後の展望

今後の展望として以下の2点を挙げる．いずれの研究も教育関係者や医療関係者，当事者である青少年にその成果を還元したいと考える．

①インターネット疲れ/SNS疲れ

ネットを介した出会いの研究は，学校や職場などの友人・知人とは異なる，ネット機能により新たに形成された関係に注目した．一方，学校や職場など対面で既に関係のある相手とのやりとりに起因する問題・課題として，ネット疲れ/SNS疲れがある．アジアを中心にネット疲れ/SNS疲れに関する研究が複数あることから（Amandeep Dhirら 2018ほか），既存の研究を基に，青少年のネット疲れ/SNS疲れについての研究を深めたい．

②神経発達症の青少年のインターネット依存

近年，青少年の神経発達症に関する調査・研究が複数ある（平谷美智夫 2020ほか）．本研究室も福井県の医療機関と連携して，神経発達症の青少年のネット利用に関する調査・研究をしている．先行研究では，神経発達症の青少年のネット利用に関する研究は少ないが，神経発達症の青少年はその特性からネット依存に陥りやすいと考えられる（宋龍平 2019）．上記の理由から，神経発達症とネット依存に関する研究を進める．

所属学会

一般社団法人社会情報学会（2011年～現在）

主要論文・著書

片山千枝，2022，『女子はなぜネットを介して出会うのか　青年期女子へのインタビュー調査から』青弓社．

――――，2020，「青年期女子が『ネットを介した出会い』を実現させる社会的・心理的要因―経験者と非経験者の差異に注目して―『公益財団法人電気通信普及財団 研究調査助成報告書』Vol.35，1-15．

加藤（旧姓）千枝，2013，「『SNS疲れ』に繋がるネガティブ経験の実態―高校生15名への面接結果に基づいて―」『社会情報学』Vol.2（1），31-43．